
涙の結晶

叶望

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涙の結晶

【Zマーク】

Z5065P

【作者名】

叶望

【あらすじ】

半年前に事故によつて早すぎる死を迎えた恋人の葵^{アオイ}を受け入れること^{ミカゲ}ができるない三日月。

そんな三日月の前に葵が現れたのだった。

プロローグ（前書き）

感想、レビュー頂けると嬉しいです。

プロローグ

真つ青に晴れきった空へ向かう天使は
俺の足元に雲のように透き通つた結晶を落とした

濁り無く透き通つて輝くそれは
純粹に輝くおまえにそつくりだ

—これは天使からの贈り物

雲一つ無く爽やかな青空に

私は優しく包まれた

有り難うの言葉をつぶやくとともに

私は一粒の涙をこぼした

溢れ出す愛しさを胸に

私はすがすがしい気持ちで風とともに一歩踏み出す

—それは私の想いの証

受け入れられぬ悲劇

なんでだよ？ 昨日会つた時は元気だつたじゃねえか。一緒にあのドラマ見るんじやなかつたのかよ？ 録画してあるぞ、なあ葵。寝てんだろう？ おまえよく寝てたもんな。これは冗談だろ？ 笑いこらえてんだろう？ 笑えよ。目え開けていつもみてえに腹抱えて笑えよ。

嘘なんだろ？ なあ、葵。

目の前には白い肌がさらりと白くなり、血の気が無くなつた葵が病室のベッドで眠つている。

秋の肌寒い風が窓から俺の頬をかすつていぐ。葵は満足したような柔らかい微笑みを残していいる。眠つているようにしか見えないその姿は美しかつた。

窓の外は秋の寂しげな青空が続いていた

キキイーツ

トラックのブレーキ音と共に私の体は空中へ飛び上がつた。空中に飛び上がつている間、周りの音が無くなり、すべてがスローモーションだつた。今日の夕食はなんだらつ、とかまるで他人ごとのように考えてた。

あ、落ちる

…あれ？

ふと目の前に血だらけの私が居た。周りの人たちが騒いでいる。
そつか。私トラックにはねられたんだつた。私もう死んだんだ。私は靈なんだ。三日月ともうちょっと居たかつたな。一人で笑いあいたかつた。あの意地悪な顔で笑つて欲しかつた。私、幸せだつたな。

今まで有難う、三日月。

そして、さようなら…

想い

「好きです。付き合ってください。」

「『めん、無理だわ。俺、好きなやつ居るから。』」

俺は出口に向かつて足を進めた。

あれから半年が経つた。俺はまだ葵の事を受け入れることができない。

忘れられるわけがねえ。本気で愛してたんだから。ただの一時的な想いだ、とかガキの恋愛『こだとか』言われいようが関係ない。ガキでも本気の恋愛だつたんだから。まっすぐに愛してたんだよ。

なあ、葵。そつちはどうだ？ 幸せにしてんのか？

俺は、お前がいないからつまんねえよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5065p/>

涙の結晶

2010年12月25日21時41分発行